

保護者様

令和2年7月22日

横浜市立上末吉小学校

校長 矢島 孝幸

令和2年度 学校説明会資料



令和2年度 教育方針

【学校教育目標】 学び合い、みとめ合い、一人ひとりが輝く上末っ子

【指導の重点】

○ 学校教育目標の重点化・具現化

本校の学校目標を具現化するにあたって、他者との「かかわり」を重点化し、教育活動に取り組んでいく。

本校児童の実態は、自分と他者との人間関係構築に苦勞している子どもが多い。誰もが安心して学校生活を送り「学校は楽しいな。仲間とかかわるって楽しいな。明日も学校へ行きたいな。」と実感してもらいたい。

そのためには、仲間と良好な人間関係を結び、自己有用感をもつことが必要である。また、仲間との共有体験を通して自尊感情を高めてもらいたい。学校では様々な規模の集団を形成する。その中で、一人一人のちがいを互いに受け入れ、仲間の良さを感じ、さらには自己の存在を肯定的に実感することが大切である。

仲間を受け入れることで「学び合い」が生まれ、学び合いを通して自己の存在を実感することで「一人ひとりが輝く上末っ子」の具現に繋がる。

○ 一人ひとりのよさを引き出すために

一人ひとりのよさを引き出すためには、学校教育の中で意図的に場面設定していかななくてはならない。誰もがどこかの場面で自分のよさを生かし、活躍できる場面をなるべく多く設定していく。日々の授業、学校行事、学級活動等様々な場面で一人ひとりのよさを引き出せるよう意図的・計画的に取り組んでいく。

○ 輝く上末っ子を目指して

教職員は、各教科等の授業をはじめ、様々な学校行事、クラブ・委員会活動、集会的な活動、奉仕的な活動など学校生活のどこかの場面でだれもが輝いてほしいと願っている。自分のよさを実感し、誇りを持ち、自己肯定感を高め、仲間とのかかわりを通して自己有用感を実感する「輝く上末っ子」を育てていきたい。

○ 確かな学力の習得

学力・学習状況調査を分析し、子どもの実態を明確にし、授業改善に取り組んでいく。基礎・基本の確実な定着を図り、一人ひとりを大切にした授業づくりを進めていく。思考力・判断力・表現力を引き出し、子ども自らが主体的・対話的に学ぶ授業に向け、日々の授業の充実を図る。

また、新学習指導要領実施に向け、カリキュラム編成を進めていく。

○ 人権教育

上末っ子人権会議を中心とした「人権教育」を大切にし、教育活動に取り組んでいる。学校全体で人権意識を高め、誰もが安心して過ごすことができる学校を目指していく。今年度は、新型コロナウイルスによる臨時休業に伴い、上末っ子人権会議や異学年交流活動を十分に行うことができないが、個々の自尊感情を高める人権教育の基本を忘れることなく取り組んでいく。

今年度も人権教育の視点を柱の一つに据えて教育活動を推進し、豊かな心の育成を目指していく。

【学校経営方針の重点】

『子どもの笑顔が輝く学校づくり』

1. 教育活動の充実

- ①分かる授業・楽しい授業の展開（確かな学力の定着）。
 - ・指導内容の明確化と的確な授業評価と基礎基本の定着。
 - ・一人ひとりを大切にし、目標に準拠した適切な指導と評価。
 - ・特別支援教育の充実と個に応じたきめ細やかな指導。
- ②心を育てる教育の推進（豊かな心の育成）。
 - ・自己実現が図られ、自己肯定感、自己有用感をもつ集団の形成。
 - ・道徳教育、人権教育の充実（互いを尊重し合い、いじめや差別をしない心の育成）。
 - ・「かかわり」を軸とした共有体験を通じた自尊感情の高まり。
- ③児童に寄り添った細やかな指導の充実
 - ・学校いじめ防止対策委員会の充実（いじめ防止基本方針に基づいたいじめの根絶）。
 - ・児童支援専任教諭を中心とした、全児童への共感的なかかわり。
 - ・ユニバーサルデザインを意識したきめ細やかな支援。
 - ・児童の情報を共有した適切な対応。
 - ・『あたりまえのことをあたりまえにできる子ども』の育成。

2. 教育環境の充実

- ①教職員は最大の教育環境
 - ・今日的教育課題に対して自己研鑽に励み、指導力向上に努める教職員集団。
 - ・社会人としての責任感や規範意識を忘れず、児童や保護者、地域の人に認められる教職員。
 - ・常に学び続ける教職員。
- ②子どもの学習を最大限支援できるような計画的な予算執行。
- ③常に危機回避の意識をもった校舎内外の安全点検。
- ④校舎内外の美化に努め、清潔で整えられて落ち着いた学習環境。

3. 社会に開かれた教育過程の推進

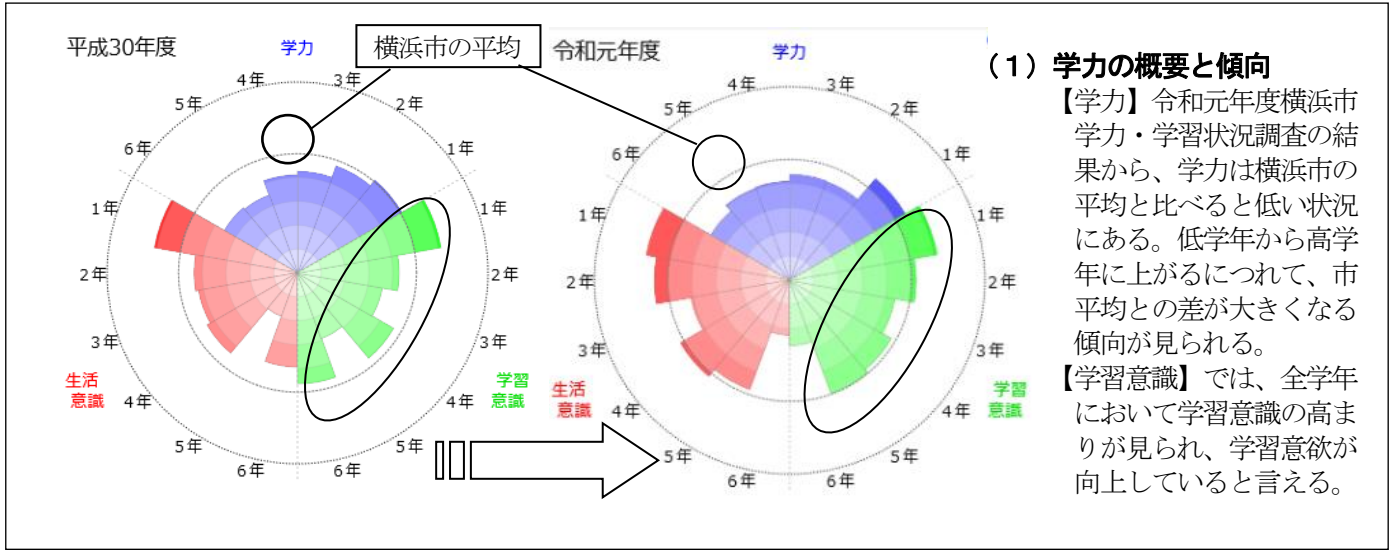
- ①家庭・地域との密な連携。
 - ・学校の情報の積極的な発信（学校HP、メール配信、電子申請システムの有効活用）。
 - ・地域活動、行事への積極的参加。
 - ・日々の教育活動の積極的な公開。
- ②地域の教育力の活用。
 - ・地域のゲストティーチャーを招いての取組（サツマイモ栽培・梅干し作り・福祉施設の方との交流など）。
 - ※今年度は、制約あり

4. その他

- ①充実した教育活動を展開するための組織づくり。
 - ・キャリアステージに応じた目標の設定と実行。
 - ・学年主任を中心とした組織的な対応（報告・連絡・相談を忘れずに）。
 - ・有機的、効果的に協働する教職員集団。
- ②働き方改革の推進。
 - ・一人一人へのきめ細やかなかかわり、支援に向けた効率的な業務の在り方の見直し。
 - ・よりよい授業づくり、基礎的学力の定着に向けた教材研究の時間確保。
 - ・グループウェアを活用した業務の効率化。
- ③家庭との連携。
 - ・保護者と情報を共有し、個に応じた適切な指導、支援。
 - ・学校へ貸与された携帯電話の有効活用。

横浜市立上末吉小学校 令和2年度 学力向上アクションプラン

1 横浜市学力・学習状況調査等からの実態把握



(2) 教科学習の状況

- 国語科：全体的に「話すこと・聞くこと」の観点で市の平均、または平均を少し上回る結果となり、大事なことを聞き逃さず、話の内容を捉える力が付いてきたと言える。また、「言語」においては、市の平均に近づいてきていることから、朝学習や家庭学習の成果が出てきていると言える。一方では、「読むこと」「書くこと」において市平均を大きく下回り、読解力の低さと習得した語彙を使って文章を書く力が弱いことが目立っているため、語彙力・読解力の定着を図る必要がある。家庭学習の充実、読書活動を推進し、語彙力・読解力を高めていく。
- 算数科：全体的に、数と計算の「技能」では市平均を上回る学年もあり、基礎的な計算力は身に付いてきていると言える。「数学的な考え方」や活用問題では市の平均との差が大きく、問題に対して筋道を立てて考え、問題解決する力の不足が課題である。課題解決の見通しをもち、自らの力で課題を解決できるよう、日々の学習を進めていく。
- 社会科：どの観点においても、市平均より2～8ポイントほど下回っている。資料の読み取り、用語を確実に覚えるなどの基礎学習から、情報からその意味を考え、自分なりの考えをもてるような活用能力を高める学習が必要である。
- 理科：ほとんどの観点において、市平均より10ポイント以上下回っている。「知識・理解」については差が小さく、「思考・判断・表現」が大きく下回っている傾向がある。基礎基本の定着を図り、日常の現象や他の実験結果などと関係付けて考える力が弱いと言える。考察して考えを深める必要がある。

(3) 生活意識調査の状況

パソコンや携帯ゲーム機の視聴時間が、1時間以上と答える児童は、市平均の32%に対し本校は40%で、昨年度よりも3%増えている。一方で、一日の家庭学習の時間が1時間以上と答えた児童が、昨年度は33%だったのに対して今年度は29%と減っている（市平均は35%）。また、一日に読書をする時間が1時間以上と答えた児童が、25%にとどまり、ほとんど読書をしていない児童が36%である。家庭と連携し、家庭での読書や学習の習慣化を図る必要がある。

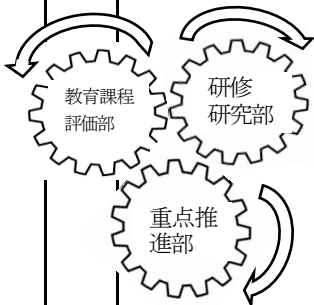
全体的に、「あいさつを自分からしている」割合が昨年度より5%、「人の気持ちを考えて行動している」が8%、「人とかかわることが好き」と答えた割合が5%増えている。本校が大切にしている『人との関わり』について、日々の教育活動を通して今年度も継続して指導していきたい。

2 中期取組目標

- 学習内容の基礎・基本の確実な定着を図り、一人一人の自己肯定感が高まる授業・教育活動の充実を図ります。
 - ・ 授業の基本を全職員で共有し確実にいき、主体的・対話的で深い学びにつながる授業力を身に付けるよう努めます。
 - ・ 朝モジュールを活用し、基礎・基本の定着につなげます。特別支援教育を通して個に応じた指導を充実させます。
- 児童一人一人を大切にし、児童・保護者・地域にとって安心して過ごせる学校づくりに努めます。
 - ・ 人権会議で児童の人権意識を高めます。「かかわり」を大切に、共有体験を意識した教育活動で自尊感情を高めます。
- 健康な心と体の育成に向けて基本的な生活習慣形成、体育科授業の充実、一校一実践運動の充実を図ります。
 - ・ スタンドアートを基に基本的な生活の確立、体育科の充実、縄跳び運動の活性を通して心身の健康づくりに努めます。

3 確かな学力の習得に向けた具体的取組

重点取組分野		具体的取組
確かな学力の 習得		<p>○データや普段の様子を基に、児童の実態分析を丁寧に行う。</p> <p>○「分かる授業」「楽しい授業」 ⇒ 授業力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の基本を共有し、わかる授業 を実践する。 ・チームで教材研究を深める。 ・一部教科分担制の導入（教材研究の充実を図る） ・「かかわり」をテーマに、対話的な学び を重視する。
	担当 教育課程評価部 研修研究部 重点推進部	<p>○一人ひとりに応じた適切な支援 ⇒ 個に応じた学習の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高学年算数科の少人数指導、2年から4年のスキルアップタイム 1年生を中心にアシスタントティーチャー <p>○基礎基本の確実な定着 ⇒ 朝モジュールの時間に基礎基本の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語「書き」、算数「計算」を中心に、基礎的、補充的な学習を行う。



児童支援・特別支援教育について

○児童支援専任とは

- ⇒児童指導の推進役、児童や保護者の教育相談
- 特別支援コーディネーター（教育相談の連絡窓口）
- 幼稚園・保育園・中学校・他機関との連携

○上末吉小学校スタンダード（末吉中ブロックのスタンダード）

- ⇒6年間をかけて身につけてほしいこと
- ⇒誰もが安全・安心で豊かに生活するためのきまり

○いじめ防止基本方針

- ⇒組織的に対応（いじめ防止対策委員会の実施）、未然防止、早期発見・早期対応、適切な対処・措置

○スキルアップタイム

- ⇒少人数での学習支援

○OYP（横浜プログラム）の活用

- ⇒心のケア、仲間づくり